

会員数(53・4・1現在)

53・4・5

逗子地区 111名

葉山地区 208名

大船地区 75名

合計 394名

吟道月報

第69号

社団法人 日本詩吟学院岳風会認

編集

神奈川 碩心会 発行

加藤 洌風

愛吟讚

南部越風(堀内支部)

元旦に富士見て家をかへりみず

峻増富嶽脊千秋 赫灼朝暉照八州

休説区々風物美 地壺人傑是神州

私の最も好きな詩の一ツである、

四季それぞれの趣をもつ並峰富士

の姿は古来数限りなく詩歌に詠ま

れ、また絵にも画かれてきました。

さて、この句は私が正月の元旦

の朝、年来夢にまで見ていた富士

山を森戸神社の巖頭から眺めた時

のもので、家で皆なが雑煮を食

べようと待ちあぐねていたもので

す、全く素晴らしい景観でした。

身体の内から自然と口をついて出

たものがこの句であった。雄大と

いうか、荘嚴というか、これを

超越した絶妙なまでの天地一体

観の光景でした。葉山のもの

みが持つ権、堀内に住むもの

有難さをしみじみ味いひたす

時の移るのを忘れ富士の偉容に

ひれ伏し、富士の景観に没入し

たのである。

正気詩心を揺がして止まない

天地正大気 粹然鐘神州

秀為不二嶽 巍巍脊千秋

注為大瀛水 洋洋環八洲

登為万朶桜 象芳難与俦

疑為百練鉄 銳利可断登

詩心が自から淨化昇華する処、

吟となり宇宙に還元される。淨

化された吟は人を動かして止まない、国境を
超え人種を問はず言葉の障害を超えて感動の
うちに共鳴するものである。戦後四十二年仕
事の都合でイントネシヤ、ボルネオ、パレン
パンの河口約一五〇料、ジャングルの真只中
「マングロブ」の伐採作業をやったことがあ
る。作業員の食糧補給の為ポンポン発動機船
に乗ってパレンパン通いをした。ラッ蒼とし
た両岸のジャングル、夜空に響く野鳥の鳴き
声、十字星のみがピカピカと光って見える。
丸腰で航く食糧補給船、襲撃しようと思えば
何時でも襲撃される、赤道直下の雄大にして
凄絶なまでの天地、孤独と仕事の責任感に苛
なまれつつも、感動の極限において口から出
たものは吟であつた。日本男児の意気を見よ
森戸神社巖頭から富士を眺めたあの神秘にし
て荘大な気魄が詩心をゆさぶり昇華した。無
心無欲、没我の佳境で吟ずれば必ずや人を感
動せずにはおかない。
吟のおかげで、何の障害もなく現地の任

務を全うすることが出来たことを感謝した次
才でした。今幸にして碩心会に籍をおき会員
の皆さんと研鑽できることを喜んでいます。
吟のルーツを追求し更に精進努力を重ねたい
ものと念じております。
(堀内支部長)

横須賀オニ地区大会の日程等の

変更について

本月報三月号(六十八号)でお知らせいた
しました横須賀オニ地区大会は都合により左
記のとおり変更になりましたので、お知らせ
いたします。

とき。七月二日(日)九時半〜四時半

ところ。逗子市図書館ホール

会員の異動

★新入会員

銀詠支部	古田島エイ	逗子市逗子六〇一七	下山口支部	川島 秀三	横須賀市本町二二六
	内島たけみ	(電) 七二〇二八一六		石渡えい子	(電) 〇四六八〇二五〇八五六
	三壁テル子	(ウ) 七二〇二ニ三九四	滝ノ坂支部	高橋 みよ	(ウ) 〇四六八〇二五〇八五六
	島村 幸枝	(ウ) 七三〇〇五一六	元町支部	佐藤 茂務	(ウ) 〇四六八〇二五〇八五六
建設支部	南雲 時雄	(ウ) 七三〇〇三三四	風早支部	高梨 省吾	(ウ) 〇四六八〇二五〇八五六
	大屋 正衛	(ウ) 七二〇一〇一八	戸塚支部	由井 レま	(ウ) 七五〇〇五〇三
	石原 きみ	(ウ) 〇四六八〇二五〇八五六	横山 時秋	長柄ニ七六	七五〇〇六二六
	橋本 シマ	(ウ) 三三〇三ニ一六	横須賀市野比七五	三枝木一男	(峰泉) 〇八二一〇三七五〇
		(ウ) 三三〇七一ニ一			

★退会々員

✓ 逗子B支部 林 静子
180 下山支部 鈴木 操山

★移籍

✓ 一色B支部 加藤清山 一色C支部へ

「逗子市詩吟詩舞連盟」

詩吟詩舞発表大会

とき、六月四日(日)十三時三〇分より
ところ、逗子市図書館ホール

第四回 碩心会温習会

とき、六月十一日(日)九時半〜四時半
ところ、逗子市図書館ホール

横須賀才二地区大会

とき、七月二日(日)九時半〜四時半
ところ、逗子市立図書館ホール

審査終え

街角で買う

君子蘭

石渡朗風 (堀内支部)